



「すぐ」使える手話講座

手話は言語です。日常で簡単に使える手話を紹介します。今回は、大阪万博の手話です。皆さんも使ってみてください。

大阪
 右手の人差し指と中指を立てて頭の横から前へ軽く2回出します。



万博
 ①両手で大きな丸を作り、前に回転させる。
 ②両手で作った指文字の「は」の字を目の高さで構え、両手を同時に左右に開く。



今回の手話講座は、広報つるが9月号（8月12日発行）で掲載します。お楽しみに！

澤崎さんの韓国東海市ダイアリー



姉妹都市の韓国東海市へ研修職員として派遣されている澤崎南美さんが、東海市での研修や生活の中で経験したしたこと、感じたことなどを毎月掲載していきます。



4月28日から、姉妹都市韓国東海市での研修が始まりました。東海市は美しい海と山、そして優しい人々がたくさん住んでいる、とてもどかですてきな港町です。



▲副市長表敬の様子

東海市で初めて勤務した行政課は、敦賀市との交流事業を担当している部署で、市役所内の組織・サービス管理や職員の福利厚生などの業務について学びました。

研修期間中は韓国語を勉強して、たくさん交流したり、良いところを学んだりできるように努めます。

今後も広報つるが、つるいち！、敦賀FMを通して東海市の紹介や研修で学んだことなどをお伝えしていきますので楽しみに！



御幣ぶつけ合い豊穰願う

5月5日 沓見御田植祭

沓見御田植祭は、同区の氏神である信露眞彦神社（男宮）と久豆彌神社（女宮）が合同で行う、五穀豊穰と無病息災を祈願して行われる春祭りです。

平安期の装束を身につけた地元住民の行列が、二つの神社を歩き来し、「王の舞」や「獅子舞」などの神事を奉納。神事後は、それぞれの氏神が宿るとされる長さ4メートルほどの御幣を勢いよくぶつけあいました。御幣には、健康や豊作のご利益があるとされており、地元住民はありがたそうに持ち帰りました。

神社の境内で「獅子舞」を奉納した松陵中学校1年生の西原紫紀さんは、「去年より上手にできた。来年もやりたい。」と話していました。



防火意識、高め合う

5月4日 白銀神社「火祭り」

戦後から続く白銀神社の「火祭り」が敦賀駅周辺で開催されました。この祭りは、住民の防火意識と町の繁栄が続くことを願い、例大祭の前日である5月4日に毎年行われているものです。午後6時半ごろ、「火神輿」が白銀神社を出発。午後8時ごろに行われた「たいまつ行列」では、観光客を含め多くの参加者がたいまつを掲げて駅前を歩きました。火神輿巡行に参加した敦賀南小学校3年生の原田晴さんは「すごく楽しかった。火がきれいよよかった。」と話していました。

「市長と語る会 ～お出かけ市長室～」を開催します！

市民の皆さんとまちづくりへの思いを語り合うため、米澤市長が市内各地区へお伺いします。

敦賀市民の方であれば、どなたでも参加できますので、どうぞお気軽にお越しください！



「市長と語る会 ～お出かけ市長室～」の流れ

- ①市長からまちづくりについての話
 - ②敦賀市のまちづくりに関する意見交換
- ※ご要望に関しては、これまでどおり区長さんを通じてお伺いします。

●●6・7月開催●●

開催日	地区	会場	時間
6/27(金)	南	南公民館	18:30 ～
7/1(火)	中郷	中郷公民館	
7/4(金)	北	北公民館	
7/10(木)	愛発	愛発公民館	
7/15(火)	西	西公民館	
7/22(火)	東郷	東郷公民館	

※各地区1回開催予定です。8月以降の日程は、順次掲載します。
 ※お申し込み不要

問い合わせ先 広報広聴課 ☎22-8112



いろんな体験にワクワク

5月18日 第43回「親子のフェスティバル」

親子のフェスティバルがきらめきみなと館とその周辺で開催されました。このイベントは、親子や仲間とのふれあいを通じて子どもの健全育成につなげようと開催されています。たくさんのイベントやブースが設けられ、会場は多くの人でにぎわいました。今回はプログラミングを体験できるコーナーが初めて設けられました。プログラミングでゲーム作り挑戦した小学1年生の児童は、「入力していくのが難しかったけれど、作成後に実際にゲームをしてみて、スコアが上がるのが楽しかった。」と話していました。



初めての田植えに挑戦

5月12日 田んぼの学校

田植えや稲刈りを通して食と農業への理解と関心を持ってもらおうと、市内の6小学校の5年生を対象に、5月12日、14日に「田んぼの学校」が行われました。この日行われた田んぼの学校には栗野小・栗野南小・沓見小の児童約170人が参加。はだしになって田んぼに入ると、柔らかくてひんやりとした泥の感触や足の裏を感じる泥や石の痛みに児童たちは思わず叫び声をあげました。栗野小学校5年生の坂本逸平さんは「泥が思ったより痛かったけれど、たくさん植えられてとても嬉しかったし楽しかった。」と笑顔で話していました。



大きく育てて！稚鮎放流

5月8日 稚鮎の放流（中郷小児童）

5月8日、鮎漁の解禁を前に、笙の川（道口）にて中郷小学校の2年生58人が稚鮎の放流を行いました。敦賀河川漁業協同組合の森正次副組合長（77歳）は、「子どもたちに魚に関心を持ってもらうためにこの事業を行っている。子どもたちが喜んでくれてよかった。」と話していました。この日参加した福地壱之介くんは、「初めて鮎を近くで見えて楽しかった。鮎が大きくなったら食べてみたい。」と話していました。